きのふけふ松島乃旅寝をうれ出侍れは
此あたりの月に言葉も尽すへりかるましくて
ちとや秋風の便りあらは舟ふ遣し農知音館文此
訪ひ来りそれ〱の口すさみあつめれはこれを
ふのしまんとまうさぬ梓ふちりはめを
聚り紙にもみし作りぬ

交甫亭

海山も月ぞありけり今宵こそ　湖東 酔月

鹿きくや宵の月乃流くなるとしらん　月舟

雞頭や女さかりの湯屋の軒　李明

きり〱す啼や佛壇のさしかけし　暮一

乞食丹火をかりて野路や月秋風　錦月

滝乃ある里みとちかり萩農華　一鳥

咲く〱も物を撓萩か横可由　百音

禾和く朝気の花書行妹か宿　利苑

あう秋さん道くてくも郡も歳　吟呂

稲妻や波のうつろて裸島　蚕仙

文音

鈴虫の啼やちきれ〱と露涼玉　名古や 暁臺

秋の夜は夕暮よりもあはれなる　仙臺 奇之坊

髪影に流れ川たゝ嵐かな　タイコ 眉山

初汐の海士の費やす指をるよ　洛 闌更

落付ぬ中比
なるしや盆流月　交甫亭 暁字

寛政紀元秋

雛菊舎刀